2 月 15 日　朝礼のお話

今日は、自分の中のもう一人の自分について話します。
みなさんは、自分の中には、もう一人の自分がいることを知っていますか。
「自分」には、「する自分」と、それを「見ている自分」がいます。
（絵を見せる）
この「目玉おやじ」みたいな「見ている自分」は、自分のやることすべてを見ています。「おまえ、あのときずるいことしたな」「おまえ、あの時全力じゃなかったな。手を抜いたよな」「おまえ、あのとき人につられて本心じゃないことをやったな」って。
他人には分からなくても、いつも厳しい、中立な目で見ている。ごまかせない。だれでも、ずるいことをしたことやさぼったことはあると思う。それで、しめしめ、誰も気づかずにうまくいった！と思ったことがあったかもしれない。でも、覚えている人、いるんだですよ。それが、もう一人の自分、「目玉おやじだ」。だから、今だってそのずるいことや手を抜いたこと、自分では覚えていると思う。

もちろん、「目玉おやじ」が覚えていることは、悪いことばかりではありません。自分のがんばりも報われなかった努力も見ていてくれます。
その「目玉おやじ」に「うん、おまえもなかなかよくやっている」と認められるということが大切です。これを「自尊」の念と言います。

「目玉おやじ」に尊敬されれば、目玉おやじは大きな力を与えてくれます。でも、ずるいことだけをしてうまくやろうなんていうときは、大きな力でその邪魔をします。「おまえなんか、成功する資格なし！だって、あんなに卑怯だったじゃないか！と。

「目玉おやじ」に尊敬されるような生き方をしよう。
人に気付いてもらえなくても、人からほめられなくても、「目玉おやじ」だけは知っていてくれて、大きな力を与えてくれるよ。